

2003年 4 月22日

経営学研究科「アドバイザー・ボード」第1回会合の概要報告

経営学研究科長

中野 常男

経営学研究科の「アドバイザー・ボード」については、既にご案内のように、2003(平成14)年4月1日から正式にスタートいたしましたが、去る4月22日(火)の13時30分から16時10分まで、神戸大学六甲台第5学舎1階会議室において、その第1回目の会合が開催されました。

当日の委員側の出席者は、以下のように15人の委員中12人であり、ご多用な中、経営学研究科の「アドバイザー・ボード」のために時間を割いていただき、心より感謝申し上げます。

出席者

ダイキン工業	会 長	井上 礼之
ロック・フィールド	社 長	岩田 弘三
江崎グリコ	社 長	江崎 勝久
ノーリツ	会 長	太田 敏郎
東洋ゴム工業	会 長	片山 松造
ワールド	社 長	寺井 秀藏
クボタ	相 談 役	土橋 芳邦
タクマ	社 長	西田 常男
大阪ガス	会 長	領木 新一郎
日本総合研究所	専 務	三和 正明
公認会計士		栴田 圭兒
読売新聞大阪本社	編集局長	河内 鏡太郎

(五十音順, 敬称略)

なお、経営学研究科側の出席者は、中野常男（研究科長）、坂下昭宣（評議員）、櫻井久勝（評議員）、出井文男（第1教務学生委員：大学院PhDコース担当）、金井壽宏（第2教務学生委員：大学院社会人MBAコース（専門大学院）担当）、國部克彦（第3教務学生委員：学部担当）、谷武幸（現代経営学専攻長；元副学長，元研究科長）、宮下國生（学長補佐；元研究科長）、加護野忠男（元研究科長）、榊原茂樹（前研究科長）等であった。



議事の概要

当日は、アドバイザリー・ボードの第1回目の会合ということで、今後さまざまなアドバイスを頂戴する前提として、まず研究科長の中野から、経営人材育成に対する経営学研究科（経営学部）のこれまでの取り組みについて、社会人教育を念頭に置いたビジネススクール（専門(職)大学院）を中心に説明が行われた。その後、委員のうちから片山氏（東洋ゴム工業株式会社社長）を委員長に選出し、片山委員長の司会のもとで、先の説明を中心に質疑応答が行われた。

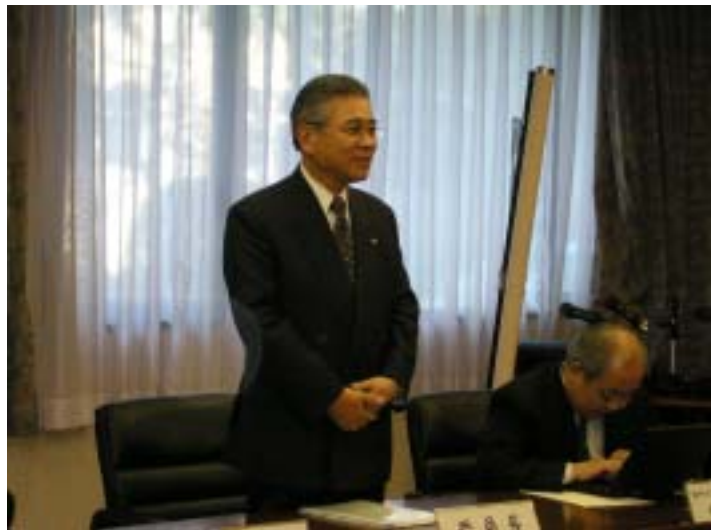
1 経営学研究科によるビジネス教育の取り組みについて

研究科長の中野から、1998（平成元）年度からはじめた「社会人MBAプログラム」を中心に、2002（平成14）年度における「専門大学院」の設置を含めた、近年における経営学研究科（経営学部）によるビジネス教育への取り組みについてのこれまでの歩みと現況とが報告された。



2 委員長の選出

当日出席した委員の中から，東洋ゴム工業株式会社会長の片山松造氏を「アドバイザー・ボード」の委員長に選出した。



3 質疑応答

片山委員長の司会のもとで，先の中野研究科長による現況報告について，委員からの質疑とこれに対する研究科長等からの応答が行われた。



委員側から指摘された主要な論点は、以下のとおりである。

企業が本当に欲しいのは、欧米型のMBAを模しているようなカリキュラムではなく、日本的経営の勝ち組企業のノーハウ等を取り入れた形での人材育成である。

神戸大学のビジネススクールが他大学のビジネススクールと比較して有する特徴は何か、何を持って差別化を図るのか。

- ・ 「日本型経営教育」(= 「神戸方式」) の確立
 - 日本の良さと欧米流の思考を融合させた新しい経営教育方法の創造
- ・ 従来の神戸のビジネススクールの教育は、理論にウェイトがかかり過ぎ
- ・ 中途半端な実務志向はだめ
- ・ 理論と実践との最適な組み合わせ・・・理論と実践との接点の説明
 - 理論を基礎とした的確な判断能力の養成
 - アイデアを育てる、考え抜く力の育成
- 一流の講師陣と一流の学生人材を糾合することが重要である。
- ・ 関西企業とのコラボレーション，OBの組織化
 - 講義内容の標準化や科目間での整合性を図る必要性がある。
- ・ 教員は「個人商店主」？
 - 勉強したい者に対して勉強する適切な場所や機会を提供することが重要である。
- ・ 六甲台にこだわらず，神戸や大阪の中心地区への教育拠点の形成
- ・ 受験者数にある程度見合った入学者数（入学定員）の増加

広報体制が不足している。

- ・ 社会に対する積極的な情報発信の重要性
ビジネススクールの人的・物的サポート体制が整備されていない。
- ・ 事務組織の不備
- ・ 物的設備の不足



以上、指摘された諸点について、中野研究科長等から現時点での対応措置等について説明が行われた。

そして、第2回会合は、本年秋に開催予定とし、ここでは、まず研究科側により自己点検・評価を進めて必要な資料を準備したうえで、委員の方々に、学界人とは異なる企業人等の視点からの外部点検・評価をお願いすることにして、閉会した。